
破壊と繁栄の象徴 -峯山龍 ジエン・モーラン-

天木武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

破壊と繁栄の象徴 - 峯山龍 ジエン・モーラン -

【Nコード】

N9071X

【作者名】

天木武

【あらすじ】

ジエンのムービーな感じ。

ジエン戦のBGMを聞きながら勢いで書いたので、読むときも是非聞きながらどうぞ。

船はいい。

俺はガキの頃から、自分で船を持ちそれに乗ることに憧れてきた。今夢叶って俺は船を走らせている。

だが足元は海ではない。

いや…海といえば海ではある。

ただし、俺のこの船「撃龍船」が走るのは砂漠と言う大海原だが。

水気を感じられないこの砂だらけの海を俺達はある獲物を探して船団を率いて走らせていた。

「頭！あれを！」

望遠鏡で辺りを見渡していた船員の1人がある方向を指差しながら俺に望遠鏡を手渡す。

俺が覗き込む先には何も変わった様子はない。

と、その時、砂の中から何かが飛び跳ねるように見えた。

飛び魚のようにこの海原を跳ねるその魚。

ニヤリと口元を緩める。

「いたのか！？」

傍らに立つ、いかつい防具に身を固める男が聞いてくる。

無言で俺は望遠鏡を手渡す。

「デルクスだ」

俺が名を呼んだモンスターを見つけたか、その男も口元を緩め、俺とハイタッチを交わす。

「全員聞け！11時の方角、デルクスの群れを見つけた！『祭り』を始めるぞ！！」

『ウオオオオオオオオオ！』

男達の雄叫びが上がる。

「帆を張れ！最大戦速だ！取り舵15度！」

「最大戦速！取り舵15！」

「大銅鑼鳴らせ！船団の連中に『峯山龍』を見つけたことを知らせてやれ！」

「了解！大銅鑼鳴らせエ！」

矢継ぎ早に飛ぶ俺の指示を復唱し、船の後尾に取り付けた大銅鑼が叩かれる。

辺りにその爆音が響くと、周囲を走る小型船団の上からも雄叫びが上がった。

船団がデルクスの群れに近づく。

と、その時地響きが起こり、大地が揺れ始めた。

「本命出るぞ！気をつける！」

目一杯叫んだはずの俺の言葉は砂漠を割って表れた「そいつ」にかき消される。

「峯山龍」ジエン・モーラン。

まさに砂漠を走る山ともいえるそいつが地面から飛び出してきたことで船団のうちの何隻かの小型船が宙に放り投げられる。

かわいそうにあいつらは早くも祭りから脱落だ。

などと気楽なことも言ってられない。

ジエンは器用にも俺の撃龍船を左舷から右舷側へと飛び越えていく。すさまじい地の揺れと共に砂漠へと着水。

「衝撃来るぞ！左舷接舷部下ろせエ！」

俺の指示にこれまで折りたたまれていた左舷の接舷部分が展開される。

同時に砂の波が船を揺らして傾かせる。

接舷部を地面にこすらせながら俺の船は転覆は免れた。

「やるぞお前ら！ありったけのバリスタと滅竜砲を叩き込んでやれ！」

俺の叫びにこの船だけでなく小型船団からも次々と弾丸が打ち出され、並走する山へと着弾していく。

祭りはまだまだ始まったばかりだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9071x/>

破壊と繁栄の象徴 -峯山龍 ジエン・モーラン-

2011年10月25日02時05分発行